

## 「西安交通大学サマースクール参加報告書」

京都大学教育学部2年 桑原綾

私は今回の西安交通大学サマースクールへの参加を通じて、今まであまり考えたことのなかった海外留学や国際交流について考えるようになりました。私がこのプログラムに参加したきっかけは、たまたま前期に履修していた中国語のクラスで案内が配られたためであり、元から留学に興味があったという訳ではありません。比較教育学や中国の教育に対する興味はありましたが、国内でも勉強はできるだろうと思っていました。しかし、実際プログラムに参加してみると、やはり現地でしかすることのできない体験や見ることのできないものが多く、中国以外にも色々な国に行き、自分の目で外国の人やもの、空気に触れたいと思うようになりました。また機会があれば、今度は中国の西安以外の地域や、欧米にも行ってみたいです。

中国では、様々な日本との文化的差異を経験しました。例えば、公衆トイレに紙がないことや、車社会なのに歩行者よりも車が優先なこと。このような文化的差異がなぜ生じたのか、どうすれば私のような外国人が中国を訪れた際に困らずに済むようにできるのか、ということを考えさせられたことは、いままであまり日本から出る機会の無かった自分にとって大きな出来事だと感じます。中国でこのような体験をしたことが、日本に帰国してから自分が当たり前だと思っていた日本の文化や習慣が、世界では当たり前ではないということ意識するきっかけになりました。

今回のプログラムには、授業だけではなく、太極拳や書道などの体験、また兵馬俑など中国の歴史遺産の見学というものも盛り込まれていました。これらを通して中国という国をより深く知ることができたと感じます。特に兵馬俑を見学した際、教科書でしか見たことがなかったものを間近で見られたことに感動するとともに、日本の遺産とは比べ物にならないスケールの大きさに圧倒され、中国という国の壮大さを体感することができました。

もともと中国の教育制度や幼児教育に興味があったのですが、今回中国に訪問して興味がさらに深まりました。今後、比較教育学を勉強し、また中国を訪れて真剣にそれらのことについて調査できるようになりたいと思います。そのためにまず、中国語の勉強に励み、会話に困らないようになりたいです。

私は西安交通大学サマースクールに参加したことによって、日本でじっとしては得られない多くのものを得ることができました。是非今後もこのプログラムを継続し、より多くの京都大学生に参加してほしいと思います。